

第6回専門部会（若者支援部会）での委員ご発言における主な論点

- 第1フェーズは支援の入り口手前の曖昧な状態が続いている状況、第2フェーズは問題が発覚してどうにかして相談先を見つけようとする緊急避難的な要素が強い状況、第3フェーズは困難な状態が長期化してしまい、つながる先を探している状況である。
⇒ さらに、これら以前の、困難な問題に対して緩やかに関わっている人々へ理解を深めていくような広い啓発が必要
- 現代の若者を取り巻く現状をみると、現実世界だけでなく、ネット上でも出会いの多彩性や多様性が失われ、生活圏が内閉化し、小さな世界の中で閉じてしまっている。
⇒ 広報啓発を行うにあたっては、ウェブ上で公開するだけでは足りず、閉じた世界に情報を送り込むことが必要

【第1フェーズについて】

- 中学校の時は不登校で公的機関に相談していた者が、通信制の高校に入ると、カウンセラーが先生を兼ねているといった考えから、公的機関への相談をやめてしまう。しかし、高校を卒業すると、支援が途切れてしまう。
⇒ 高校卒業真近の若者に、支援機関に関する情報提供も必要
⇒ 家族と一緒に伴走してくれるような支援機関があるといい。
- 個人又は家族の責任なのだから支援を求めてはいけない、という自己責任論がいまだ根強い。さらに、相談を受ける側についても、まだあなたは頑張れるという姿勢の窓口もある。
⇒ 相談者の立場で、寄り添う形の支援が必要。
- 保護者は、自分の育て方が悪かったのではないかということを感じたり、相談に行くと責められたらどうしようという意識などがあり、なかなか相談に踏み切れない。
⇒ 広報の際に、困難な状況に陥りやすい特徴を例示してみたり、より大きなテーマの支援イベントを実施し、気軽に相談に行けるような取組が必要

- 暴力や自傷行為など、荒れている時期を経験すると、家族は、刺激を与えないように見守っていくようになる。しかし、見守ることと放置することの区別は難しく、放置状態になってしまっている。
- 困難を抱えていることを周囲の人間に知られたくないとの思いから、自宅から遠いところにある相談機関を使いたいというニーズも多い。
⇒ 地域密着で支援を受けさせること自体が要支援者の負担となる場合もある。

【第2フェーズについて】

- 非行の場合、司法や更生保護など様々な機関が関わるが、機関同士の連携は少なく、さらに支援が終わるとそこで関係が切れてしまう。
⇒ 司法や更生保護に関わる人たちが、先のことを考えた処分、処遇、情報を共有し、連携して対応することが必要
- 地域において、専門家ではなくても、困っている子供たちを一次的に受け止める場所が必要
- 支援に必要な機関の情報を簡単に検索できるような仕組みが必要
- 青少年委員や民生・児童委員など、地域の実情をよく分かっている方たちの情報を、いかに丁寧に専門家につなぐかが重要
- 複合的な問題を抱える若者のために、気軽に行ける総合相談窓口が必要。さらに、またいつでも電話をしてください、といった優しいメッセージを付すなどの丁寧な対応も必要

【第3フェーズについて】

- 相談したけれども、適切な支援機関へつながらないといったような場合、入り口で躓いている場合が多い。最初に嫌な思いをすると二度と行かないので、丁寧な対応が必要。また、自分の困難

さを言葉にするのにとっても時間がかかり、1回の相談では難しい場合もある。

⇒ 最初の窓口では、専門性が高い対応が求められる。

- 連携は必要であるが、つながれた機関はまず、その専門性の中でやるべきことをやった後に次につなげることが重要
- 医療機関につなぐと、薬を処方されて満足してしまうなど安心してしまいが、解決に至っているとは限らない。また、医療との連携は難しいが、例えば、トラウマ治療や衝動のコントロールなど、精神科との連携も大切
- 相談窓口は、つなぎっぱなしではなく、行きつ戻りつというような支援ができるとよい。スクラム連携は一方通行ではない。
- 第3フェーズでは、問題が長期化しているため、若者よりも若者を支える家族の方が先に疲弊しがちである。家族のエネルギーが枯渇しない方法を探っていく必要
- 住む場所がなかったり、帰る家族がいない人は、そうでない人より困難の度合いが高い。特に非行歴のある若者は、虐待、育児放棄などの家庭で育った場合が多く、住む場所の支援が必要

【次代を担う若者の自立に向けた支援のあり方】

- 若者の生活圏の内閉化を壊すような、今までとは違うものの見方を自分にしてくれる人や、自分の自己イメージを変えてくれるような人と出会う機会が必要
- 内閉化している世界に第3の視点を入れるために、同世代だけではなく異なる世代の視点を入れることが重要
- 社会全体で困難を抱える若者への理解を深めることが大切